

神戸大学の研究シーズ育成

研究者の発明やアイデアを企業で事業化するプロセスを「シーズ(種)のインキュベーション(成長促進)」と呼んでいます。シーズ段階では社会で利用できるか判断が難しい場合に「PoC(Proof of Concept)」や「実証研究」と呼ばれる有用性の検証が必要です。

本学は科学技術振興機構(JST)の大学発新産業創出プログラム(START)大学推進型に採択されています。その事業費に独自財源を組み合わせ、産官学連携本部では学内で公募した研究テーマを評価して、有望なシーズに実証研究費を配分する「GAPファンド」を展開しています。実証研究にはKUIのアソシエイトが伴走して実証を重ね、事業化が見えてきたら、市場調査やマーケティングに基づくビジネスモデルを作成することでベンチャー企業(スタートアップ企業とも呼びます)の立ち上げをサポートします。

ベンチャー企業としての船出はインキュベーションの最終段階で、大きな事業資金が必要です。ここでは、KUI社の子会社(本学の孫会社)である「神戸大学キャピタル(KUC)」が登場します。KUCはベンチャーキャピタル(投資家)や金融機関からの投資を集めて、「神戸大学ファンド」を設立して、有望なベンチャー企業へ投資することで、企業基盤を育成します。さらに、民間のファンドなどから出資を集め大きな成長を目指します。ベンチャー、スタートアップによるイノベーション(技術革新)は、我が国の成長戦略に位置付けられており、大学の研究を社会に活用する有効な手段とされています。

■ インキュベーションフロー



START

大学発新産業創出プログラム

科学技術振興機構(JST)の大学発新産業創出プログラム(START)大学推進型では、本学と大阪工業大学が共同で、所属する研究者・アントレプレナーの技術シーズを発掘し、起業活動支援を行い、技術シーズやビジネスモデルのブラッシュアップを行い、ベンチャーキャピタル(VC)から投資を受けられるベンチャーへ橋渡しすることを目的としています。本学は2020年度に採択され、独自財源も組み合わせることでこれまでに55件の技術シーズを支援してきました。毎年度末には、採択した技術シーズを外部的に向けて発表する Demo Day を開催しています。